つながり

奈良県立ろう学校　特別支援部
２０２３年　１２月号

2学期がスタートし、3ヶ月が経ちました。体育大会、文化祭、学習発表会など行事も目白押しで、子供達や先生方も忙しくされていることでしょう。今回は書籍の紹介です。以下に抜粋したものをまとめましたので、どうぞご覧ください。

タイトル
『聴覚障害教育 これまでとこれから』

北大路書房から出版されている、「聴覚障害障害教育これまでとこれから」という本を紹介します。
副題が「コミュニケーション論争・9歳の壁・障害認識を中心に」となっているので、難しそうだと敬遠しそうになるのですが、具体的な事例満載でとても分かりやすい本です。
それもそのはず、著者は筑波技術大学にお勤めの聴覚障害教員の脇中起余子先生で、本人と教員・研究者としての視点が含まれています。たとえば「聴覚障害ゆえに遭遇する場面」の章など、イラストでの視覚化と経験談を交えた解説など、この本ならではのものです。そして、聾学校の児童・生徒の「つまずき」の具体例を示しながら、9歳の壁、学力保障、障害認識へと「聾教育の今日的課題」に迫っていく内容です。新しく担当となった先生からベテランの方までに是非お読み頂きたい本となっております。

北大路書房　脇中起余子著　定価（本体2300円＋税）

第2章 「聴覚障害ゆえに遭遇する場面」より紹介

聴覚障害ゆえにどんな場面で「不便さ」や「バリア」があるのか、筆者の体験やイラストを交えてわかりやすく紹介してあります。

●口形を見ていて、電柱にぶつかる

読話に頼っている聴覚障害者の場合、相手の口元ばかり注目して、ぶつかったり小さな段差に気づかなかったりすることがあります。聴児が多い地域の学校では、同級生が「あぶないよ」と教えてくれる場面があるととっても助かります。これからの季節はクラブ活動で遅くなった時、あたりが暗くなり、友だちの口がよく見えないので、困っている聞こえにくい、聞こえない子ども達は多いかもです。

●集団での会話に入れない

１対１での会話はできても、集団での会話が難しい聴覚障害者が多いです。聴児が多い地域の学校でのHRの内容や教科以外の学習時などで困っている子ども達がいます。内容がほとんどわからず、多数決をとるための挙手を適当にやった経験はないでしょうか。
家族の団らんも「集団での会話」であり、「家族の団らんに入れず、さみしかった」と語る大人の聴覚障害者に多く会います。

●冗談がわからない、でも笑うフリをする

授業中に先生が冗談を言った時、何がおかしいのかわからないけれど、自分だけ笑わないのも目立つので、笑うフリをすることがよくあります。

私は聴者ですが手話通訳をした際に聴覚障害教員から『通訳者も私たちと同じタイミングで笑ってほしい』と数秒早く笑った私を見て教えてもらった経験があります。いきなり100%とはなりませんが授業や会議、講演だけではなく、普段の雑談の情報も会話からの貴重な情報源としての認識をお願いします。

※これ以外にも、30もの場面が紹介されています。

第7章　聴覚障害児にみられる「つまずき」より紹介

●抽象的なことばが少ない、理解しにくい

従来から、聴覚障害児は具体的なことばは覚えられても、抽象的なことばが理解しにくいことが指摘されています。「お金」は、具体物である硬貨や紙幣をみせて「これがお金やで！」と言えますが、「税金」は、「これが税金や！」と提示できません。「国民や府民からお金を集めて・・・」と説明しなければなりません。この「ことばによることばの説明」の理解が難しいのです。

特に、目に見えないもの（原子や分子など）、相対的な関係を表すもの（比率、濃度など）、微妙な心理を表すことば（義理、意地、意固地など）でしょうか。

●具体的なことばであっても覚えにくいものがある

先ほど抽象的なことばの理解が難しいと述べましたが、具体的なことばやまた、通常幼児や小学校低学年の子なら知っていると思われることばであっても、理解が難しいものがあります。聴覚障害児が他に比べて覚えるのが不得手と感じている例を、以下にあげます。

○親戚関係を表すことば

「いとこ」「めい」などの意味を知らない聴覚障害児が多く見られます。これらは、聴児であれば、日常的に耳に入ってくると思われます。

○からだの名称と、それを使った慣用句

からだの名称について、「ここ」と指さすことはできても、名称が言えない生徒がかなりいますが、手話ではそのからだの部位を指すだけのことが多い。

「耳をすます」「耳を傾ける」「耳を貸す」などの表現を知らない聴覚障害児がよくみられます。日本語では、からだの名称を使った慣用句が多いですが、それらの意味の理解が遅れがちです。

●漢字に頼りすぎて意味を考える

ひらがなやカタカナより漢字のほうが、イメージがわきやすい人が多いようです。しかし、漢字に頼りすぎて、意味をまちがって解釈する例も多くあります。「大便はおおきなウンコのこと、小便はちいさなウンコのこと」「座薬は座って飲む薬のこと」「木枯らしは、枯れた木のこと」。漢字から意味を想像できる力は大切ですが、漢字に頼りすぎて判断してはいけません。音読みと訓読み、赤い鉛筆と赤鉛筆、見下すと見下ろすなど、読み方や送りがなによって意味が変わる例も多いのがその理由です。

『障害』ってひとくくりにはできないオーダーメイド

1人ひとりの支援の方法は違い、また、1人ひとりの目指すべき生活や目標は違います。だからこそ、本で学んだ知識や技術が正しくないんとちがうか、先輩から教えてもらった方法が合ってないんとちゃうか、と自分の仕事について悩んでおられませんか。

そんな時こそ、『ろう学校の教育相談チーム』を活用して頂けたらと思います。チームメイトとして一緒に議論し「こういうやり方もあるよ」など他の人たちの考えに触れること。自分に悩むのではなく、子どもらが子ども達らしく暮らすにはどうしたらいいのかを一番に考え、悩んだら自分の考えをこのチームに投げかけて下さい。そして『子ども達から学び子ども達へ還す。』今後も子ども達と仲良く楽しくお願いします。　　（ろう学校　三上）